

第3回ワークショップ 「9つの着眼点から考える これからの鶴岡に必要なこと」

日時:2018年6月30日(土)13:30-16:30

場所:鶴岡市先端産業支援センターD棟 レクチャーホール

ファシリテーター:東北公益文科大学 武田真理子
及び 地域共創コーディネーター

ワークショップの目的

- 新鶴岡市総合計画の策定に際し、市民の考えや意向等を把握し、まちづくりに対する想いを共有することを目的に実施する。
- 市民一人ひとりの参画と協働により鶴岡市の「未来をつくる」ことができるよう、学び合いと対話の場を育む。
- 第3回目は、新鶴岡市総合計画の策定にあたり、昨年度の市民ワークショップ参加者の意見等を踏まえて作成された「9つの着眼点:これからの10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点」について、「施策の方向性(今後どのように進めて行くべきか、将来に向けてどのような取り組みが必要か等)」について意見を出し合い、話し合い、まとめる。

第1回ワークショップのふりかえり

「10年後の鶴岡と そのまちづくりについて考えよう」

日時:2018年1月27日(土)13:30~16:30

会場:鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール

参加者:70名+テーブルファシリテーター15名

○参加者一人ひとりが、10年後の鶴岡について、こんなまちにしたい、こうだったらいいな、鶴岡のこんなところが好きと思うこと、考えることを発信し、グループ及び参加者全体で共有。お互いの意見に対して賛同やアドバイスなどを出し合い、さらに自身の思いや考えを深め、発信。

⇒複数グループで共通するキーワード: (シールが貼られた意見)

食文化(10) / 歴史・伝統文化の尊重(9) / 豊かな自然(9) /
特徴のある日本一のまちづくり(先端研、サイエンスパークを含む)(9) /
子育てにやさしいまち(6) / 老若男女が楽しめるまち(5) /
つながりを大切にすまち(4) / 移住・定住者・若者・働きやすいまち(6) /
交通網の整備(5) / 雪に負けないまち(4) / 観光振興(4) /
(鶴岡だけでない)庄内地域のまちづくり(4) / 健康長寿のまち(3) /
医療の充実(3)



⇒個人ワークシートの意見: (鶴岡市政策企画課まとめ)

新しい鶴岡の創造
希望溢れるまち
笑顔溢れるまち
郷土愛溢れるまち
総動のまち
子ども溢れるまち
新旧融合した総活躍のまち
チャレンジできるまち
持続可能なまち

第2回ワークショップのふりかえり 「あなたが考える

鶴岡市の大事にしたい価値とは」

日時:2018年2月17日(土)13:30~16:30

場所:鶴岡市総合保健福祉センター こ・ふる 大会議室

参加者:78名+テーブルファシリテーター15名



○新鶴岡市総合計画の策定にあたり、総合計画の「基本構想」(鶴岡市のめざす都市像を掲げ、まちづくりの基本方針を示すもの)へのフィードバックを目的とし、市民が考える「今後10年間の鶴岡市において大事にしたい価値」を抽出。

⇒複数グループで共通する「大事にしたい価値」:(シールが貼られた意見)

農業・食文化に関するもの(26) /

歴史・伝統・文化・方言に関するもの(26) /

人と人とのつながり・対話に関するもの(33) /

自然・景観に関するもの(19) / 子ども・学生・若者に関するもの(16) /

郷土愛(7) / 産業(観光を含む)・仕事に関するもの(18) /

健康に関するもの(6) / 安心・利便性・交通に関するもの(14)

本日のワークショップの進め方

- グループ分け(9つの着眼点の内、最も関心のある項目のテーブルに移動)
- アイスブレイク~自己紹介~
- グループワーク①
~各グループのテーマについて「施策の方向性」をふせんに書き出し、共有する~
- グループワーク② & グループワーク③
~より多くの人との対話とアイデア・意見の共有~
※希望する項目を2つ選んでいただきます。
本日は「屋台方式」で話し合い!
- グループワーク④
~各グループのテーマごとの「施策の方向性」のまとめ、「まとめの模造紙」の作成~
- 全体共有 ~ギャラリーウォーク~

⇒個人ワークシートの意見:(鶴岡市政策企画課まとめ)

温故知創(先人たちの知恵と営みで継承し、形成されてきた今のまち全てに価値が内在しており、それをしっかり読み取り、感じ取った上で、新しい価値を創造していく事が大事である。)

CFT(challenge field tsuruoka)(若者の学びの場や仕事を増やし、また、仕事以外

でも活躍できる場をつくる事が大事。)

継承と発展(鶴岡の豊かな自然、ハイレベルな農業、城下町の雰囲気は、これからも守り継ぐべきものであり、さらに、まち全体を活性化させることができる価値である。)

主体性の発揮(対話の場をつくり、共通の課題を認識し、誰もが自ら解決していこうとする意欲を大切にしていきたい。)

顔が見える地域(その土地に根付く当たり前の日常を大切に、コミュニケーションが取れ、顔が見える安全安心な地域。)

幸福の連鎖(個人を尊重し、健康長寿を促進することで、幸せを感じられる人のへむがいの生きた連鎖を大切にしたい。)

「まとめの模造紙」の作成

- 1)グループワーク①~③で9つの着眼点ごとに出された「施策の方向性」に関する意見、話し合われたことを各テーブルで確認し合い、似た意見をまとめてみましょう!
- 2)1)でまとめた意見ごとに「まとめの文章」を作成してみましょう!
×「~してほしい。」
○「~する。」「~したい。」「~して行こう。」「~を目指す。」「~(と、に)なる。」
ex.今後10年間、一人ひとりの健康寿命を延ばしていくために、生涯スポーツの推進に力を入れる。
・地域を誇りに思える子どもと大人を育てるため、鶴岡の歴史を学べる場を学校、家庭、地域で協力して増やす。
- 3)新しい模造紙に2)で作成した「まとめの文章」を書き写しましょう!
- 4)3)の「まとめの文章」の下に、関連する意見が書かれているふせんを貼り直しましょう!

鶴岡市総合計画と市民ワークショップについて

①総合計画を策定しています。

総合計画とは

市町村がこれから10年でどんな方向にまちづくりを進めていくかをまとめる計画です。鶴岡市では、次の10年（31年～40年）の計画を策定します。

計画には「目指す都市像」や「まちづくりの基本方針」「まちづくりの柱と施策の方向」が書かれます。

皆さんの意見を聞いてつくります

計画は専門家の意見や住民の皆さんからの意見を聞いて決めていきます。

今回は市民の皆さんの声をワークショップ（参加型で問題の解決方法や合意形成をする話し合いの作業場。工房）の方法でまとめ計画に反映させていきます。

②計画づくりの進め方（大まかな流れ）

前回ワークショップの結果を反映しています

これまで1月と2月に2回ワークショップを開催しました。

その際の意見は次の流れで計画に反映されていきます。

市民ワークショップ（WS） 1月～2月

- ・10年後の鶴岡とそのまちづくりについて～どんなまちにしたいか～
- ・今後10年間の鶴岡市において大事にしたい価値～まちづくりに指針～

↓

企画専門委員会 5月

- ・WSの意見を反映して「9つの着眼点」を整理

↓

4つの各分野の専門委員会・今回市民WS 5月～6月

- ・「9つの着眼点」を基に「施策の方向」について検討

↓

専門委員会・審議会 9月～10月目途

- ・「9つの着眼点」「施策の方向」を基にしながら全体の大きな方向性をとりまとめ

↓

市民ワークショップ（市民説明会） 11月日途

- ・計画の内容について説明 意見の反映をチェック

↓

市議会 12月

- ・施策の方向を含む基本構想を議決

③今回のWSのねらい

- ・9つの着眼点から「施策の方向性」を考えてください

皆さん自身や身の回りのまちの課題などから解決のための方向性についてご意見をお願いします。

- ・WSの意見の行方

皆さんから頂いた意見は、専門委員会から頂いた意見と合わせて、計画に反映していきます。

④注意とお願い

- ・抽象的すぎたり、ただの要望の羅列にならないようにお願いします

ex) 「夢と希望にあふれるまちになるといい」→もう少し具体的に

なぜそう思うのか、どうするとそうなるのかといったことを考えてください

ex) 「何何して欲しい・何何すべきだ」→逆にもう少し抽象的に

なぜそう思うのか、そうなるために何が必要かを考えてください。

これからの10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点 に対する各専門委員会等で出された現状・課題と施策の方向

① 挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備

現状と課題

- ・ 地元の自然、歴史、文化等について知らないことが多く、関心が十分でないため、引きつけることが出来ない。
- ・ 市外の方でも、鶴岡市の体育施設等を利用できることが知られていない。
- ・ 子育てにお金がかかりすぎている。
- ・ 都会の貧困家庭を受け入れる体制が整っていない。
- ・ 介護施設が不足している。
- ・ 介護職の精神的負担が多くメンタルヘルスケアが必要で、仕事の魅力で人を引きつけられない。
- ・ 介護者の高齢化による問題の、色々な環境の整備が出来ていない。
- ・ 最低賃金が低すぎる。
- ・ 日本海沿岸東北自動車道のミッシングリンク区間があり、環境整備されていない。
- ・ 本市は住宅づくりに欠かせない優れた技能を有する大工や左官などの建築関連技能者を輩出してきたが、経営環境の厳しさから後継者を育てることも困難な状況にあることなどから、技能者の高齢化、技能の伝承が課題となっている。
- ・ 鶴岡産木材を活用し市内の設計者、施工者による地域性を活かした「つるおか住宅」の普及促進に向け、技能の伝承と共に技術職人の育成を図るため技能検定の受験費用の補助を行っている。
- ・ 国内外に誇れる産業等が少ない。
- ・ 企業誘致のための制度が不足している。
- ・ 首都圏在住の友人の料理人に良い食材があったら紹介してほしいと言われるが、旬の時期に届けることができない。
- ・ 畑を耕作している市民が多いが、同じ時期に同じ農産物を作って余らせている。
- ・ 法人の農業経営体の数は増加しているが、企業的な経営になっていないケースがみられる。
- ・ 本市は恵まれた農林水産資源を有し、豊富な知識と経験、高い生産技術を持ち合わせた農業者がいる一方、こうした資源を生かした高付加価値化の取り組みが少ない。
- ・ ほ場区画が小さく水路が老朽化している地域では、効率的で競争力の高い農業経営が困難となっている。
- ・ 農業に関心が高い移住者（IターンやUターン）の受入れは、新たな農業の担い手の確保につながるが、28年度のUターン就農者は、9名にとどまっている。
- ・ 28年度のUターン就農者9名である一方で、29年度にリタイヤした農業者は100名程度と想定され、外部からの人材の確保が必要である。
- ・ 日本全国、働き手不足で人がいない。農業も同じで、以前の農業は春作業だけが忙しかったが、今は、春だけでなく1年を通して人材が不足している状況。しかし、農業だけでは通年雇用できないという厳しい問題がある。

① 挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備 ※続き

現状と課題 ※続き

- ・収益性の高い優良材の需要が低迷している一方で、木質バイオマス発電や集成材原料となる低質材の需要が拡大し、供給が対応できていない。
- ・関東圏からも新規就業したい人が来るが、宿泊する施設がない。
- ・漁船の大型化に、岸壁や造船場の巻き上げ施設が適応できない問題がある。
- ・社員の人づくり、投資を呼び込んで色んなものを作ったり、交流人口を増やしたり、そのために地域の文化資源をどう表現していくのかという課題もある。

施策の方向

② 人づくりによる人材の確保

現状と課題

- ・ 地域において、人と人のつながりや地域への帰属意識が低下している。
- ・ 地域活動に必要なコーディネーター機能が果たされていない。
- ・ 人づくりに向けた新たな取組みがされていない。
- ・ 地域づくりがマンネリ化している。
- ・ 地域で優秀な人材が活躍できる場所が少なく、人材が流出している。
- ・ 人づくりは学校教育に負うところが大きいですが、英語教育、道徳教育、情報教育など多種多様な教育への対応、また、発達障がいの子供等への対応など教育課題が山積している。
- ・ 一人が様々な役を兼務せざるを得ない状況にあり、自治組織役員の負担感が大きくなっている。
- ・ 核家族化、生活環境の変化、世代間の価値観の相違の拡大など、社会構造の変化を背景に、家族の絆が弱まっている。
- ・ 介護士、保育士、医師等の人材不足で良質なサービスを維持出来ない。
- ・ 保育士の確保、質の向上が図られていない。
- ・ 核家族、共働き等で放課後の児童に手・目が行き届かない家庭が多く、良質な子育てが出来ない。
- ・ 子どもたちに地元の素晴らしさが伝わっていないため、地元愛が育たない。
- ・ 放課後児童の対応などで元気高齢者を活用する等の有効な人材を活用できていない。
- ・ まちづくりの主役となる人材の育成
- ・ 基幹産業である第一次産業がおざなりにされている。
- ・ 新規就農者は、年平均は約 24 名で、市全体としては増加傾向ではあるが、中山間地域の朝日、温海地域では、それぞれ 1 名程度と深刻な状況である。
- ・ 生産拡大を進めようとしても生産してくれる方を中々発掘できない。労働力が減り、人がいないという非常に悲しい現状である。
- ・ 生産組合が機能していた時代では、集落機能がしっかりしていた。今は受委託が進み、農業者がいなくなり、高齢者しかいないムラ（集落）が多くなり、集落営農をしてもリーダーがいらない。
- ・ 漁業者数の減少や高齢化が進むなか、30～40 代の若手漁業者が年間漁獲額の上位に入るなど、地域漁業の牽引役として期待されている。
- ・ 市内の中小企業及び小規模事業所では、後継者、担い手不足による事業承継が進んでおらず、廃業の増加が懸念される。
- ・ 地元企業の人手不足が深刻な状況にある。
- ・ 中高生、高専、大学生等の若者やその保護者の地元企業の認知度が低い。
- ・ 就職内定率が高い一方で、就職先のミスマッチによる早期離職も増えている。
- ・ 市内の小規模事業所が減っているのは、鶴岡の商売は成り立たない。経営を継続し承継していくことが課題。中小企業の人材不足は非常に厳しい問題である。
- ・ 出羽商工会では海外からの働き手を募集しており、今後、人材不足の課題が海外の働き手によって一部改善されつつある。

② 人づくりによる人材の確保 ※続き

現状と課題 ※続き

- ・ 観光分野は、3Kイメージなどもあり求職者が少なく、ニーズへの対応、後継者問題等で深刻さが増している。
- ・ 観光事業者間及び行政との連携・調整等を担い、観光産業を牽引する高度専門人材が求められている現状である。

施策の方向

③ 交流人口を増やす施策の実施

現状と課題

- ・仕方なく住むのではなく、住みたくて住むまちにしたい。
- ・文化財が活用されていない。
- ・楽しめるようなアクティビティがない。
- ・子どもと一緒に遊べる場所が少なく、遠くに遊びに行ってしまう。
- ・高齢者の移住受入れは市民の介護負担に影響を与える。
- ・交通網の整備が遅れている。
- ・ヒト、モノ、カネが、すべて交通網が発達している地域に流れて、田舎の過疎化が起こっている。
- ・街並景観保全に向けた意識啓蒙と修景整備が課題である。
- ・文化的・歴史的価値を有する六十里越街道だが、全国的には知名度が低く集客力に課題がある。
- ・高速交通ネットワーク・温海地域IC周辺・主要幹線道路等の整備促進が課題である。
- ・都市農村交流の推進と農業・自然体験フィールドが充実している。
- ・市南部広域観光圏の拠点づくりと基盤整備の促進が課題である。
- ・藤島地域を縦断する国道345号は、市街地外環状北部等と接続していないため、「加茂水族館」などの観光客は、藤島地域や最上方面とのネットワークに恵まれていない。
- ・藤島地域は水田農業技術の中心地であり、豊かな農村文化を代表する美しい獅子踊りに加え、東田川文化記念館、藤島城址を含む歴史公園エリアを地域活性化が新たな拠点となっている。
- ・観光のPRが不足している。
- ・観光農園や農家民宿、農家レストランなどは、農業を活かした貴重な観光資源となりうるが、そのポテンシャルを生かしきれていない。
- ・従来型の団体旅行や修学旅行などから、個人・小グループの旅行やテーマ性の強い目的型の観光需要が高まってきている。
- ・観光の面で、三瀬、堅苔沢、由良に定置網漁業があり、旅館〇〇さんは体験漁業をさせて好評だと聞いている。どこで体験できるのかという問い合わせが多く、PR・情報提供が不十分である。
- ・中心市街地、中心商店街において賑わい創出・交流人口増を目的としたイベント等（ナイトバザール、寒だら祭り等）を実施しているが、人材不足、実施主体の高齢化が課題となっている。
- ・空き家・空き地の増加など、中心市街地では空洞化が進み、まちの活力が低下している。
- ・中心商店街のにぎわい創出に向けて、市内にある商店街が集まって、商店街での食べ歩きツアーやお宝発見ツアーなどを企画している。
- ・交流人口を増やす施策は、商店街としても必ず取り組まなければならない課題である。
- ・鶴岡への認識度が県内・隣県他市に比べ著しく低く、観光ブランドの構築が進んでいない。
- ・戦略的・戦術的な観光施策の推進が求められているが、イベントを中心とした行き当たりばったり型の取組みが中心である。
- ・鶴岡までの1次交通（空路、高速道・鉄道等）、域内での2次交通いずれも不十分であり、他観光地との競争力低下につながっている。

③ 交流人口を増やす施策の実施 ※続き

現状と課題 ※続き

- ・ 来訪者の満足感を高めリピーター、移住・定住者の増につなげ、外部からの人・財による地域の活性化が求められている現状である。
- ・ 観光連盟では、地域とお客様の視点を客観的に調査し、そこから戦略を立てているが、客観性がなく合意形成がとれないため、データに基づいてこれから先の鶴岡の観光のことを考えていかなくてはならない。
- ・ 地元で観光事業を行っている目線では気づきにくいこともあるため、これから発掘して磨き上げたら伸びるものは何か、U I Jターンされた方や、外国人、旅行者等の目線も必要となっている。
- ・ 観光の現場での成功例や失敗例などをいろいろな人たちで情報交換し、戦略を一緒に練っていく場、行政・地元・事業者などの立場から現場感覚で話ができる場、意見を吸い上げる場が少ない。
- ・ 二次交通が観光の多様性に決定的な意味を持っており、山間部の遠い場所など、マイカーでしか行けない観光資源は、外国人観光客や運転しない人からは見逃されてしまう。

施策の方向

④ 若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

現状と課題

- ・人口減少や少子高齢化、過疎化、孤立化が進行する地域社会にあって、日常生活での困りごとへの対処、孤独死防止、生命・財産に係る権利擁護などが問題となっている。
- ・少子高齢化・転居・転出などにより人口減少に歯止めが掛からず、集落自治機能が低下している。
- ・少子高齢化社会によるデメリットが具体的に示されていない。
- ・少子高齢化が加速し、介護・医療費などの社会保障費が増加する。
- ・高齢者のみ世帯が増加し、交通手段も無く外出が困難である。
- ・スポーツ活動環境に対する市民周知が図られていない。スポーツ設備の整備が進んでいない。
- ・不登校、引きこもりの子供が学べる場や機会が限られている。
- ・閉校した学校施設が有効に活用されていない。
- ・地域における世代間交流が少ない。
- ・首都圏の大学への進学にお金がかかるなど経済的負担が出生率の低下に影響を及ぼしている。
- ・生徒数の減少が部活動のチーム編成に影響し、好きな部活動を選べない中学生がいる。
- ・子どもの遊び場が少ない。
- ・子育て世代の若い人には時間的また金銭的余裕が無い
- ・社会的なリーダーと若い世代が語り合う機会が少ない。
- ・総合計画を自分ごとと考える意識が希薄である。
- ・高校卒業後、域外流出してしまう。
- ・保育サービスの充実が出来ていない。
- ・子育てに係る相談支援の充実が出来ていない。
- ・自殺対策に関して、自分には関係のないことと考えている人が多いので、理解が進んでいない。
- ・介護人材がいないことで、サービス提供に支障が生じている。
- ・今後の医療提供体制に対する不安がある。
- ・子どもの一時預かりの充実が出来ていない。
- ・不妊治療に対して、知られていないし、理解が進んでいない。
- ・子育てしながら就職活動をするのが難しい状況がある。
- ・転入者の子育て不安の緩和が課題。
- ・地域の最低賃金が低すぎる。これでは生活が厳しい。
- ・快適で安全安心な住環境整備の事業として「地域住宅リフォーム助成事業」を実施しており、地元工務店等によるリフォームの際に、耐震補強工事、県産木材の利用、バリアフリー対応、省エネ工事を行う際、工事費の一定額を助成することで、既存住宅ストックの活用及び地域住宅産業の活性化を図っている。また、本市の喫緊の課題である人口減少対策について、人口減少・少子化対策の取組みの一環として、婚姻や出産に伴いリフォーム工事を行う場合のほか、市外からの移住定住者を対象に補助金の上乗せを行っている。

④ 若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築 ※続き

現状と課題 ※続き

- ・本市の地域住宅リフォーム助成事業は、山形県の住宅リフォーム総合支援事業を活用したものとなっており、県が本事業を廃止した場合、市独自の支援制度の継続は財政的に困難な状態となり、地域の住宅関連産業・地域経済の活性化にも大きく影響するものと懸念される。
- ・公営住宅の有効活用において、近年、上層階の住宅が募集しても応募ない状況がある。一方で、1階への入居を希望する高齢者単身世帯が増加傾向にあり、高齢同志での抽選となってしまうことが多々ある。
- ・新たな住宅セーフティネットを構築するため、低所得者、高齢者、障害者の入居を拒まない民間賃貸住宅を登録する制度が発足している。
- ・市営住宅の約46%が昭和40、50年代に建設された建築物のため、老朽化が進んでいる。
- ・建設業における子育て支援策の一環として、県が実施している「山形いきいき子育て応援企業登録・認定制度」の認定を受けた建設業者に対し「鶴岡市建設工事指名競争入札参加者の格付に関する規程」に基づき、等級別格付の算定に当たり、評定の加点を行っている。今年度、格付更新を行い、格付対象業者の認定者数を確認したところ、175社中12社(6.9%)であった。2年前より3社増加しているものの、業者によっては敢えて評定の加点を望まない者もいることから、大幅な伸びは期待できない
- ・園芸や果樹の生産には、繁忙期や面積拡大の際に「農業労働力」の確保が必要であるが、その確保が難しい現状である。
- ・農業と福祉が連携した取組みは、あまり進んでいない。
- ・若い女性が県外に多く流出している状況がある。

施策の方向

⑤ 内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承

現状と課題

- ・ 鶴岡の自然や文化・歴史の素晴らしさの発信が不十分である。
- ・ 文化財・美術作品のデジタルアーカイブ化が進んでいない。
- ・ 森林のスギ林からブナ林への転換が図られていない。
- ・ 冬期間の運動不足で地域の健康が低下しやすい傾向がある。
- ・ 辛抱の地（内面重視、沈潜の風）であるため、心身が低下しやすい。
- ・ 【再掲】 文化的・歴史的価値を有する六十里越街道や朝日連峰等、多種多様な自然資源や山岳信仰等の歴史・文化資産が地域にあるものの、その魅力を観光客はもとより地域に対しても十分に情報発信しきれていない。
- ・ 【再掲】 街並景観保全に向けた意識啓蒙と修景整備の推進が課題である。
- ・ 主たる産業が農業を中心とした地域であることが忘れられている。
- ・ だだちゃ豆、温海かぶをはじめとする在来作物が60種確認され、豊かな食文化の源泉となっている。特産品となっている品目、消滅が危惧される品目など、その状況は多様である。
- ・ 学校給食への鶴岡産野菜の利用を促進するため、利用率50%を目標にして取り組んでいるが、29年度の利用率は約38%となっている。
- ・ 近年、皆伐地の減少により、草藪に火入れをして焼畑を行うことが多くなり、森林資源の循環と切り離された形で行われている。
- ・ 温暖化が漁業に影響を与えている。
- ・ 鶴岡市は庄内おぼこサワラ、紅エビ、鼠ヶ関のエビ、トラフグ、貝類、サザエとかアワビ、岩ガキなど豊富な魚介類があるが、ありすぎてぼやけている。

施策の方向

⑥「循環」をキーワードとして重視

現状と課題

- ・ごみの分別の細分化ができていない。高齢化が進むと、ごみ分別の細分化が難しくなる。
- ・不法投棄がなくなる。
- ・地球温暖化が進み環境破壊が進んでいる。地球環境保全のため、温室効果ガスの削減に向けた取組が必要。
- ・本市は海拔0mから朝日地域の大平 340mまで住民が居住している。
- ・鶴岡は古来、輪廻転生・よみがえりの地（出羽三山・ミイラ・森供養...）であったが、それが活かされていない。
- ・下水道は、未利用エネルギーが豊富にあり、これらの積極的な活用を促進する必要がある。
- ・藤島地域を横断する国道345号は市街地外環状北部と接続していないため、集客数を誇る「加茂水族館」などからの観光客を藤島地域まで呼び込むことが難しい。
- ・藤島地域は他地域に比べ観光スポットのインパクトに欠けるが、これまでの「米と獅子の里」に加えて、東田川文化記念館を含む歴史公園エリアを地域活性化の新たな拠点と位置付けしている。
- ・後継者不足や高齢化により、畜産農家数、飼養頭羽数が減少しており、耕種農家が、畜産農家の堆肥で飼料作物を生産し、畜産農家はその飼料で家畜を育てる耕畜連携の維持が難しい。
- ・市内に10数カ所ある産直施設や地元野菜コーナーを設けているスーパー小売店も多く、地場産野菜を購入しやすい環境づくりが進んできている。
- ・畑作と畜産の連携を図り、農畜産物を生産する耕畜連携は、既に実施されている。
- ・収益性の高い優良材の需要が低迷している一方で、木質バイオマス発電や集成材原料となる低質材の需要が拡大し、供給が対応できていない。[再掲]
- ・近年、皆伐地の減少により、単数に火入れをして焼畑を行うことが多くなり、森林資源の循環と切り離された形で行われている。[再掲]
- ・最終製品製造企業が少ないため、地域内循環型の産業構造を構築しにくい状況にある。

施策の方向

⑦ 対応から本格的国際都市へのシフト

現状と課題

- ・ 国際都市としての受け入れ態勢や環境の条件が満たされていない。
- ・ 鶴岡の特徴が海外への情報発信に生かされていない。
- ・ 人口減少や高齢化が急速に進み、医療・介護など切れ目ないサービスが将来に亘り求められている。
- ・ 先端研という強みがあるのに、まだまだ活かされていない。
- ・ 宿泊施設、アテンドが不足している。
- ・ 市民の語学力が不足している。
- ・ 国際社会や国際都市を目指す上で、鶴岡市を訪れようとした時に、英語での情報が少ない。
- ・ 海外での市場調査や販売促進の取組みとして、庄内柿やメロンなどの青果物やその加工品を海外へ輸出されているが、その後の継続的な取引には繋がっていない状況である。
- ・ 農業の国際競争力の強化を図るためGAP認証などが求められているが、国際水準GAPが3件にとどまっている。
- ・ 労働力不足が顕在化しているが、農業分野において、外国人を受け入れている事例はみられない。
- ・ ビジネスや観光での外国人の来鶴が増加しているなか、コミュニケーションや情報提供の利便性確保への対応が遅れている。
- ・ 出羽商工会では海外からの働き手を募集しており、今後、人材不足の課題が海外の働き手によって一部改善されつつある。(再掲)
- ・ インバウンド客の受入にあたっては、知名度のほか、言語、通信環境、宗教・文化的習慣などへの対応の不十分さがネックとなっている。
- ・ インバウンドを踏まえた国際化へのシフトも課題になっている。

施策の方向

⑧ コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現

現状と課題

- ・ 少子高齢化や人口減少によって、中心市街地では空き家・空地が大規模に発生するなど空洞化が進んでいる。
- ・ 通信販売が増加するとともに商店街の衰退や大型店舗も売り上げが減少するなど商業の形態が劇的に変わっている。
- ・ 仕事と子育ての両立支援が弱い。
- ・ 不妊治療、産休、育休に対する配慮が欠けている。
- ・ 何でもコンパクトにお金のかからない方向でという行政の雰囲気がある。
- ・ 行政施設の廃止とか休止ばかりが目につく。
- ・ 過疎地、交通弱者等への配慮が不足している。
- ・ 空き家の適正管理と有効活用に課題がある。
- ・ 適切な土地利用と快適な市街地の形成に課題がある。
- ・ 賑わいのある中心市街地の形成に課題がある。
- ・ 公民連携による活性化の推進に課題がある。
- ・ 中心商店街は高齢化と担い手不足により組織自体の弱体化が顕著だが、組織・団体の成り立ちの違いもあり、連携・ネットワーク化が進んでいない。
- ・ 高齢化が進み、商店街だけでは立ち行かなくなっている現状がある。
- ・ コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現は、商店街として必ず進めていきたいと思っている。

施策の方向

⑨ オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

現状と課題

- ・何でも満遍なく、そつのない計画は具体的でないため市民にとって分かりにくい。
- ・慶応先端研等の存在を活かしきれていない。
- ・健康や検診に対する意識が低い。
- ・個性豊かなまちづくりの推進
- ・松ヶ岡開墾場への2次交通が整備されていない。
- ・ユネスコ食文化創造都市や食と農の景勝地に認定されているが、その強みを農業分野で活かしきれていない。
- ・畑作と畜産の連携を図り、農畜産物を生産する耕畜連携は、既に実施されている。[再掲]
- ・サムライゆかりのシルクとして日本遺産に登録された絹産業の一貫工程のうち、養蚕業が途絶えている現状である。
- ・全国に例がないような事業所が少ない。
- ・市民に観光面のPRが浸透していない。
- ・漁業者自らの取組みの成果により、トラフグや庄内おぼこサワラなどは高品質魚として中央市場からも高評価され、ブランド化されている。

施策の方向